

---

# 傍観

光風霽月

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

傍観

### 【Nコード】

N1858B

### 【作者名】

光風霽月

### 【あらすじ】

後悔している。だからここにいます。

彼はいつもいじめられていた。

僕は僕の間所でいつもそれを見ていた。

教室の中、後ろの方、それが彼がいじめられる場所。  
教室の窓側、後ろの隅、それが僕の間所。

いつからのいじめだろうか。

よくわからないが、いつのまにか彼はいじめられていた。  
理由も詳しくはわからない。

彼の容姿は普通。

身長も平均的。

太っているわけでも痩せすぎてるわけでもない。

性格は快活な方……だった。

僕には彼がいじめられている理由がわからない。

僕はただ見ているだけ。

彼に向けられて発せられる言葉は、きもい、うざい、しね、そんなのばかり。

彼がなにかをするたびにそんな言葉が発せられる。

別に変な事をしているわけではない。

ただ、彼がなにか行動するたびに、きもい、うざい、しね。

僕はただ見ているだけ。

たまに、彼は色々な呼ばれ方をしていた。

時には財布。

彼は誰かに金を出せ、と言われ、脅えながら金を出した。

時にはサンドバック。

彼は誰かにストレス解消だ、と言われ、意味もなく殴られた。

僕はただ見ているだけ。

何日か過ぎ、彼へのいじめが止まった。

彼がなにかしても、きもい、うざい、しね、とは言われなくなった。誰も彼に反応しなくなった。

彼が転ぶと、泣こうと、階段からころげ落ちようと、誰も彼に何も言わない。

誰も彼に何もしない。

誰も彼を見ない。

時々、クスクスと誰かが笑う声がするだけ。

僕はただ、見ているだけ。

また何日か過ぎ、僕は久しぶりに屋上に行ってみた。

少し嫌な思い出があるからこの頃は行かなかったけど、なぜか行きたくなった。

屋上に行くと、彼がいた。

誰かが落ちないように張られたフェンス、それに手を掛けている。遠くから見ても分かるくらい、震えている。

フェンス側に顔を向けているから表情は分からないけど、きっと思いつめた表情をしているだろう。

彼は足をフェンスに掛け、乗り越えようとする。

「……駄目だ」

自然と、僕の口から言葉が出た。

彼はビクツとして、顔だけ振り向いた。

どうやら僕の声が聞こえたようだ。

ただどすぐに顔を戻し、フェンスを乗り越えようとした。

「死んだら駄目だ!!」

また、自然と口から言葉が出た。

彼はさっきより勢いよく振り向いた。

「死んだってなにも良いことなんてない！！死んだらもう楽しいことが出来ない！！待ってるものはなにもない！！」

「……うるさいっ！！」

彼はぎゅっと目をつむり、そう叫んだ。

「うるさいうるさいうるさい！！僕はもう疲れたんだ！！僕の気持ちも知らないで……誰だか知らないけどほっといてくれよ！！」

「ほっとけないよ！！」

昔の僕を見るように。

「君にはまだ知らない幸せがある、君にはまだ知らない喜びがある、それを知る前に死ぬなんてもったいないよ」

僕も知らない幸せや喜びを。

「……でも、俺は死ななきゃいけない」

彼はそう言ってうつむく。

「……みんなが俺を否定する、みんなが俺をいないものとする、俺は生きてちゃいけないんだ……だから……！！」

「……生きる」

「……え？」

彼は顔を上げた。

「君は死ぬ事を本当に望んじやいない。なら生きる、生きてくれ。誰かなんか関係ない、君が生きたいと、本当は生きたいと望むなら……生きて、ほしい」

そんな死に方をしても、きっと後悔するだけだから。

……誰かさんのように。

彼はまたうつむき、なにかを考えている。

やがて、フェンスから離れ、僕に向かって歩いてくる。

ゆっくりと歩き、僕の前に来て、そして、僕の体を文字通り、すり抜け、出口に向かう。

……少し勘違いした。

彼は僕ではなく、出口に向かって歩いていった。

彼は出口の前で足を止めた。

「……………」ありがとう

彼は静かに、そう言った。

彼はドアに手を掛け、ドアを開き、くぐり抜ける。  
きっと彼の場所に帰るのだろう。

つらい場所に。

けど、僕と同じ場所よりはずっと良い。

それに、もしかしたら、いや、きっとこれから……………。

……………これから、これから僕はどうしようか。

そろそろ僕が居るべき本当の場所にいかうか。

それとも仮染めの場所でまだ彼を見てみようか。

それとも……………。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1858b/>

---

傍観

2011年1月18日21時58分発行